

121 Wet Base Coat & Adhesive



施工面積

- ◇接着剤として
 - 8mm(5/16インチ) ノッチコテで
20-23㎡(220-250ft²)
 - 16mm(5/8インチ) ノッチコテで
16-17㎡(170-190ft²)
- ◇Water Master 12.7mm(1/2インチ)
ノッチコテで
20-22.3㎡(215-240ft²)
- ◇Parex Standard Mesh 355を塗り込む時の
ベースコートとして
16.7-19.5㎡(180-210ft²)
- ◇Parex Standard Mesh 355とUltra High Impact
Mesh 20を塗り込む時の2層ベースコートと
して
14-17㎡(150-190ft²)
- ◇レベラーとしての施工面積は施工を施す際
の厚みに拠ります。

注記

施工面積は、下地や施工方法により異なります。上記はおおよその面積となります。

製品の特徴

- ◇ParexのEIFSとしてのベースコート
- ◇記載された下地にEPSラミネートを施す際の接着剤
- ◇50%アクリル系接着剤・50%セメント
- ◇ポルトランドセメントを加えてお使い下さい。

用途

- ◇下記下地のEPS接着材としてお使い頂けます。
 - 外部地盤面の石膏せき板
 - グラスファイバー強化石膏下地
 - モルタル、コンクリート、セメントボード
 - EPS断熱ボード
- ◇ベースコートとして
 - Parex Nu-Tech Stucco
 - その他の建築用塗料・仕上材
- ◇モルタル・コンクリート・漆喰の表面にはレベラー・充填材として使用出来ます。
この施工に関してのみ、コテひと塗り、9.5mm (3/8インチ)の厚みとすることができます。

組成

- ◇結合基材：アクリルポリマー100%
ポルトランドセメントとの混合可能
- ◇水性：VOC準拠
- ◇色：ライトグレー

容量

25kg (55lb)プラスチック製ペール缶 (正味重量)

保管方法

直射日光を避け、凍結しないようにして下さい。
また、3缶以上を積まないで下さい。

有効期間



作業時間

セメントを加えて後、1-2時間で作業を行って下さい。
作業時間は、湿度や温度によっても異なります。

乾燥時間

湿度・気温によりますが、1-4日で十分な接着強度が出ます。通常環境（気温21℃ 相対湿度50%）なら24時間程で乾燥します。着色した場合や湿気の多い場合は乾燥時間が長くなります。

ParexUSAのAccel-Pakを加えることにより、乾燥時間を短縮することができます。詳しくはお問い合わせ下さい。

清掃

乾燥する前は水溶性ですので、乾燥する前に容器や道具を水で洗って下さい。

下地処理

◇半径1219mm(4フィート)あたりの平面の凹凸は最大6mm(1/4インチ)までです。

◇モルタルやコンクリート表面の凹凸は6mm(1/4インチ)まで、その他の下地材では3mm(1/8インチ)か、それ以下となります。

◇より良い施工を行うために、施工面から埃や汚れを取り除いて下さい。

◇塗装が施された面に施工をする際には、その塗装面積が全体の10%以下になるように、塗装面を取り除いて下さい。

◇その他、ご質問等ございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

攪拌：

◇攪拌や準備にはきれいな工具・道具をお使い下さい。

◇25Kg(55lb)のParex 121BaseCoat&Adhesiveを3.75ℓ(1ガロン)の飲料水で十分に攪拌して下さい。攪拌には、回転速度400-500rpmの防錆パドル付13mm(1/2インチ)のドリルをお使い下さい。

◇事前に、ポルトランドセメントを25kg(55lb)計量しておいて下さい。半量のポルトランドセメント(12.5Kg-27.5lb)を以下に記載されているように各バケツに加えて下さい。

◇121BaseCoat&Adhesiveとポルトランドセメントの比率が最終的には1:1になるように少しづつ両方を混ぜ合わせていって下さい。

◇作業性の調整の為に水を加えるのであれば、冷たいきれいな水(最大0.47ℓ)を加えることもできます。

◇最初の攪拌が完了したら、5分ほど様子を見て下さい。再度攪拌の必要があれば、もう一度行って下さい。

◇Parex121BaseCoat&Adhesiveは、攪拌後すぐにお使い下さい。使用しない場合は容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。

◇再度使用する場合は、もう一度攪拌するほうが良いかもしれません。

◇ParexUSAが認めた添加物のみ加えることができます。

施工方法：

◇この製品の使用に先立ち添付してあるラベルの記載内容を読んで下さい。

◇接着剤として：

モルタルやコンクリートには16mm(5/8インチ)のノッチコテを、EIFS WaterMasterSystemには12.7mm(1/2インチ)のノッチコテを、その他の下地材には8mm(5/16インチ)のノッチコテを使い、断熱板表面全体に施工して下さい。コテ塗りの厚みが均一になるようにコテを壁面に沿って垂直に動かし断熱材の端まで塗って下さい。接着剤が均一に、有効に働くように、表面全体に圧力をかけて断熱板を壁に押しあてて下さい。接着剤の畝が平らになるように十分に圧力をかけて下さい。グラスファイバー強化石膏下地にはもっと強い圧力が必要です。

◇ベースコートとして

24時間(気温21℃、相対湿度50%の場合)が経過し接着が完了したら、EPSボードにヤスリをかけて下さい。ステンレス製コテを使用し、ヤスリがけをした断熱板表面に混ぜ合わせたBaseCoat121を施工して下さい。

厚みは1.5-2.4mm(1/16-3/32インチ)となるようにして下さい。121BaseCoatの混合物が濡れている内にParexの強化メッシュを載せて下さい。強化メッシュが十分に塗り込められるまでコテを使って表面を滑らかに整えて下さい。この時、厚みは約1.5mm(1/16インチ)となるようにして下さい。強化メッシュの網目が121BaseCoatの表面から見えなくなるようにして下さい。乾燥後にメッシュの網目が微かに見えるのがあっても大丈夫です。

◇レベラー、フィラーとして

Parex 121BaseCoat&Adhesiveをコテを使用して施工面に滑らかに均一に塗って下さい。一層塗りの厚みは9.5mm(3/8インチ)を超えないようにして下さい。

PAREX[®]

www.parex.com

Corporate Office

Parex USA, Inc.

4125 E. La Palma Ave., Suite 250

Anaheim, CA 92807

(866) 515-0067

Tech Support: (800) 225-2424

Facilities

Andam, GA

Brearside, CA

French Camp, CA

Colorado Springs, CO

Albuquerque, NM

San Antonio, TX

Willes Barre, PA

El Pierre, FL



121 Wet

Base Coat & Adhesive

注意事項等

- ◇施工中及び養生中は周囲と表面の温度は必ず4℃を下回らないようにして下さい。必要に応じて補助暖房や降雨対策を施して下さい。
- ◇121BaseCoat&Adhesiveと表面の結合の妨げになるような残留物は取り除いて下さい。傷みのない、清潔で、乾燥した、塗装の施されていない施工面にのみ、施工を施して下さい。
- ◇暑い気候の直射日光のもとでの施工は、Parexの強化メッシュを埋め込む作業時間が大幅に減少し表面を滑らかに仕上がることが困難となります。
- ◇EPSのレベラーとしては使用しないで下さい。EPSにはヤスリがけを行って下さい。
- ◇施工に先立ち、製品容器に明記してある注意事項を必ずお読み下さい。
緊急連絡先：1-800-424-9300
- ◇製品に関する詳しい取扱いはMSDS（製品安全データシート）を参照して下さい。
最新のMSDSは、Parexのホームページでもご覧頂けます。
- ◇この製品説明書は、発行時での最新情報に基づき誠実に作成されています。これらの情報は、通常環境と作業状態の下で、ここに揚げられている製品が、適切な使用と施工がなされる為のガイドラインとして使用者に提供されることを目的としています。一つとして同じ施工はありませんので、ParexUSAは多種多様な、あるいは予測不可能な状況で発生する事柄に関しては責任を負わないこととします。



問い合わせ先：

有限会社 インターナショナル・プライオリティ・プロジェクト
〒465-0087 愛知県名古屋市名東区名東本通3-42

Tel: (052) 704-9181 Fax: (052) 704-9183

E-mail: ippgeneral@i-p-p.com

Visit our website at <http://www.i-p-p.com>

